

ゾウの治療 【Medical Care by the elephants】

http://www.upali.ch/medicalcare_en.html

ゾウは、しばしば病気になるか？

ゾウは、非常に素晴らしい体格の持ち主で、基本的には、たくましい動物である。もちろん、これは、なんらストレスに曝されず、栄養充分で、十分に世話をされた動物園のゾウの場合である。

どこで、ゾウは負傷するか？

それにもかかわらず、軽度あるいは重度の負傷が起こる。そして、ゾウの調教師は、負傷を治療する。

ゾウの皮膚は非常に傷つきやすく、創傷は非常にゆっくり治癒する。そういうわけで、ゾウの調教師は、ゾウの日々の洗浄の間、注意深く、表皮の小さな負傷を探さなければならない。創傷は、徹底的に消毒し、治療用軟膏で治療しなければならない。そうしなければ、軽度の創傷が膿瘍に進行するかなりの危険性がある。

どのようにして、創傷を治療するか？

膿瘍と創傷の治療には、清潔な水、カモミール抽出物（エキス）とヨード剤（イソジン液）を主として使う。また、異なる創傷消毒薬を使うことがある。

膿瘍と創傷の治療は、非常に長い期間を要する。そして、それらの損傷は、ほとんどの場合、皮膚に瘢痕を残す。

このような皮膚の瘢痕化は、調教師が、あまりに鋭利で、あまりに尖った手鉤を使って軽率にあるいは故意に、「ゾウを導いた（ゾウに手鉤を引っかけて、連れて行こうとした）」ゾウに見られる。このような瘢痕の大部分は、耳の後ろ、鼻の一番上、肘で見つかるだろう。

なぜ、ゾウは戦うか？

順位の変動の可能性がある（順位が入れ替わる）社会構造で生活しているゾウたちの場合には、上位の順位を狙う闘争と喧嘩が、絶え間なく起こる。彼らの闘争のための方法と武器の選択は、きちんと決まったものではな



い（決まりきった戦闘方法がない）。最もよく使う武器としては、蹴り（キック）、鼻を使った鞭打ち、頭部を使って壁に向かって敵に突っ込んだり、放飼場を取り囲むモートに敵を押し出すことである。

ゾウは、噛むか？

写真のように、一部のサーカスでは、サーカスの舞台への入場時や、駅からサーカスのテントに向かう途中に、後ろのゾウが前のゾウの尾を鼻で掴む有害な風習（習慣）をさせている。尾は無防備な部分であるから、この有害な風習は、ゾウにとって、ありがたいことではない（ゾウに配慮していない）。ゾウは、いったい誰が自分の尾を持っているか確認できない。



闘争の際に、ゾウは敵の尾を噛もうとする。

尾を噛むことは、自然界でも起こるか？

アジアの使役ゾウが、使役の後に、このゾウに摂餌させるために、両前肢を一緒に縛って（ベレー）近くのジャングルの中に繋いでいる場合に起こりえる。自由に歩き回っている真の野生のゾウは、両足を一緒に縛られた使役ゾウを攻撃し、尾を噛もうとする。

負傷した尾の治療は難しいか？

尾を噛まれたという事実の他に、尾は脊椎の延長であり、間違いなく大変な痛みを伴い、尾の創傷治療は難しい。ゾウが、自分の傷ついた尾を調教師に見せ、治療を許すためには、調教師とゾウとの間に、非常に素晴らしい親密さが必要である。

ゾウの尾は、凄まじく力強い。そして、もし、ゾウが、あなたを望んでいない場合には、尾を保持することは不可能である。あなたを望んでいないゾウは、素早くあちこちに向きを変えるか、尾であちこちを打ちまわすか、後肢でキックさえもするだろう。



どのようにして、創傷を治療するか？

カモミール抽出物（エキス）の水溶液の中に傷を負った尾を薬浴させる（尾を浸ける）。薬浴は、英語で *soaking* あるいは *bathing* と呼ばれる。バケツにカモミール抽出物（エキス）の水溶液を一杯に入れ、この中に傷ついた尾を約 15 分間、薬浴させなければならない。この薬浴の間に、古い痂皮と皮膚の断片を絶え間なくきれいにしなければならない。この処置は、ゾウにとって非常に痛いことである（苦痛を伴う）。もし、そのゾウが自分の調教師を信頼していれば、だいたいの場合、ゾウは落ち着いて静かに立ち、自分が治療されることを許す。薬浴の後、消毒軟膏と皮膚治療軟膏（皮膚の再生用軟膏）を創傷部に塗擦する。

この後、褒美として、そのゾウの大好きなエサを与えることが、最も重要である。

こういった治療が、数週間続く場合、褒美を与えることは決まってするようになるだろう（ゾウとの約束になるだろう）。そして、創傷治療は、まさしく日々の日課となる。



ゾウの創傷のための包帯があるか？

完全に創傷を包帯で覆うことは、現実的に不可能である。包帯をされたゾウ自身が、そして、他のゾウたちもまた、その包帯を取ろうとしたり、食べようとしたり、包帯で遊ぼうとするだろう。

獣医師は、帝王切開によってゾウを助けることができるか？

ゾウに対してメスを使う手術は、現実的に不可能である。獣医師がゾウの皮膚を切開する場合、獣医師は、ゾウの質量が持つ膨大な物理的パワーと戦わなければならない。腹部の手術では、ゾウのように大きな質量の腹圧は、切開部から外に腸を膨張させ、腸が創口から噴き出るだろう。

同じ理由により、ゾウの難産の時に、帝王切開を実行することは、ほとんどありえない。また、帝王切開を受けた母ゾウは、決して助からない。



他にどんな可能性があるか？

肛門と外陰部の間（会陰部）を切開する**会陰切開術**がある。この手術は、もし胎仔が生存していれば、産道に閉塞している胎仔を救うために、また、もし、胎仔が死亡していれば、母ゾウの命を救うために、ゾウの長い産道に胎仔が間違いなく居るという状況においてのみ考えられる。

こういう手術の創傷を縫合することは、更なる問題である。切開した左右の創面には、桁外れの引っ張る力が生じ、縫合は強烈な緊張を受ける。普通の手術用縫合糸は、皮膚にくい込み、切開した両側の皮膚を引き寄せることができないだろう。

どのようにして、ゾウは麻酔されるか？

ゾウに**麻酔**をかけることは難しい。たとえ、獣医師が注射器で直接、全身麻酔薬を投与できるとしても、適切な量を投与することは難しい。

全身麻酔薬の効果が発現し始め、ゾウが倒れる際に、この巨大な動物が正しい姿勢に倒れてくれることが非常に重要である。ゾウが適切に呼吸することができるように、ゾウは慎重に寝てくれないと寝てくれない。

さらに、ゾウは、獣医師が、うまく効率的に仕事ができるような方向に横にならなければならない。



直接飼育ではないゾウ、あるいは ERD のない場合のゾウの麻酔や治療はどうするか？

上述した全てのことは、直接飼育下のゾウに対して、あるいは圧縮ケージ（ERD あるいは、ゾウ用のスクイズケージ：ゾウの飼育方法の章を参照）を使った場合にのみ可能である。直接飼育ではない飼育方法、あるいは、その他の飼育方法では、獣医師は吹矢を用いて全身麻酔薬を投与するしかないだろう。

この処置方法は、多くの危険性をはらんでいる。すなわち・・・

1. ゾウの体重は、推定するだけで正確ではない。
2. ゾウが、いつ頃、そして、どんな姿勢で倒れて眠るか誰も解らない。
3. ゾウが倒れる際に、自分で負傷することすらあるだろう。

私はまた、こんな方法で飼育されている創傷を負ったゾウに対して、日々の徹底的な洗浄と消毒を、どのようにして実施するか解らない。

全身麻酔薬の他の選択肢は何か？

人道的なもう一つの可能性は、バルビツレートを使ってゾウを落ち着かせることである。バルビツレートは、ゾウに居眠りをもたらし、そして次ぎに、局所麻酔薬を投与する必要がある。この方法が、メスゾウ（Druk）の陰核手術のために使われた。

陰核上の腫瘍（腫瘍）の増殖は、しばしば、ひどく Druk を困らせた。腫瘍の増殖により、排尿が難しくなり、腫瘍にある多くの皺の中に詰まった汚物と頑固な埃は、Druk の皮膚を刺激し、Druk は痒がった。唯一の有効な解決策は、手術により、この増殖した腫瘍を切除し摘出することだった。



どのようにして止血したか？

陰核は、（腫瘍の増殖のために）血管分布が豊富であったので、2人の獣医師は、切断面を直ちに閉ざし（鉗圧止血し）、縫合しなければならなかった。手術は数時間続き、大出血を起こしたが、強力なバルビツレートと、ゾウ（Druk）を倒れないように使ったハーネスのおかげで、Druk は助かった。



どのようにして、メスゾウ（Druk）の手術の準備をしたか？

ゾウが倒れた場合に、ゾウと獣医師と調教師が危険に陥ることを避けるために、獣医師は、獣舎の天井の T 字バーに滑車を使って、ゾウを吊すハーネスを取り付けた。

患者（ゾウ）が、ハーネスで不安（動揺）にならないように、手術の数週間前からハーネスをゾウに試し始めた。やがて、この練習は、普通に決まってすることの一部になった。注意深く、ちょっと疑い深いゾウ（Druk）は、このハーネスが危険なものではなく、痛くないことを学習した。



オスゾウもまた、同じように治療することができるか？

全てのこれらの手術は、しかしながら、直接飼育下のメスゾウだけに可能である（亜成獣以上のオスゾウを直接飼育するべきではない）。間接飼育（防護下飼育）においては、広範囲の軽傷の治療は、確かに可能である（ゾウの飼育方法の章を参照）。オスゾウ（Maxie）がマストでない場合、Maxie が信頼する調教師によって、Maxie は、何の問題もなく治療させる。爪と足裏に問題があった場合、Maxie は、大きなたらいの中に、自分の足を確実に浸ける。（オーケーという合図で、Maxie は、たらいのカモミール抽出液を数回、勝手にがぶ飲みする・・・それは禁じられているが）